

人生最初の1000日の奇跡

受精から出生までが**270日**

出生から2歳の誕生日までの**730日**, 合計で**1000日間**

この**1000日間**の低栄養状態が, その子の残りの人生を左右します

- 身体発育や認知・知的発達に遅れをもたらす
- **DOHaD**に繋がります

Miracle of First 1000 Days <http://thousanddays.org/>

妊娠前の若い女性の栄養状態をも反映することから, 「母と子供の栄養状態」として考えるべき問題です.

DOHaDとは？

(Developmental Origin Health and Disease)

胎児期・新生児期に由来する健康並びに疾病

- ◆ 栄養状態が悪い子宮内で胎児が発育すると成人病の素因が形成され、出生後に食事・運動やストレス等のマイナスの生活習慣が負荷されることで、生活習慣病が発症する。疾病はこの二段階を経て発症する。胎内栄養は、出生後あるいは次世代の健康を確保するうえで重要である

「遺伝因子」 + 「環境因子」ではなく、 「遺伝因子」 x 「環境因子」

— という概念です。



- ◆ 先進国では、**低出生体重児, 薬剤 (ステロイド剤) とストレス**がDOHaDに関与する主な因子と考えられています。

第29回日本医学会総会2015会頭講演より

(京大名誉教授 井村裕夫)

日本の未来のために、いま医学・医療は何をなすべきか ～「これからの予防医学は『先制医療』へ」～

- 個人の遺伝素因や（胎生期の）環境因子を手掛かりにハイリスク者を見つけ、バイオマーカーを使って発症前に介入する『先制医療』を目指すことになる
- 癌, 脳心血管病, メタボリックシンドローム, 認知症などの非感染性疾患 (NCD) の発症には, 遺伝素因と環境因子が関わっている
- 遺伝素因については, 「全ゲノム解析やエクソーム解析でさまざまな疾患の原因遺伝子が続々と特定されている」とし, 環境因子にも着目するよう強調した.
- 注目すべき疫学仮説として, DOHaDの考え方を紹介.
- 「個人の遺伝素因と胎生期の環境を調べれば, NCDのハイリスク者を見つけ出して発症前に予防できる」とし, 先制医療を推進するために, 「遺伝素因の解明」「ゲノム発現 (エピゲノム) に着目した胎生期からのコホート」などの研究に, 官民を挙げて取り組むよう訴えた.

《先制医療とは？》

- 遺伝素因およびバイオマーカーを用いて、ハイリスク群を同定（層別化, 個別化）し, それら疾患の発症を高い確率で予測します.
- 科学的根拠に基づいた疾患発症予測, そしてリスクに応じた適切な予防的介入を実施し, 疾患（あるいは重篤な合併症）の発症を予防するか遅らせようとするこれからの健康・医療のコンセプトと考えられています.